

管内初の夏秋イチゴ



三重・JA あぐりん伊勢
伊勢子会社

三重県のJA伊勢の子会社であるあぐりん伊勢（伊勢市）は、本年度産から夏秋イチゴの栽培を始めた。同JA管内で、夏秋イチゴが栽培されるのは初めて。約9畝で「すずあかね」「サマールビー」「夏のしずく」の3品種の栽培に取り組んでいく。収穫は6月下旬から始まって、11月まで続く。

周年出荷向け試験栽培

夜温が20度を超える日が続いたことから花芽の分化率が下がり、やや生育に遅れがみられているが、品質は上々。引き続きハウス内環境の管理を行い、安定した収量確保に取り組む。

同社の圃場（ほじょう）がある伊勢市は、冬春期に収穫するイチゴ「章姫」「かおり野」などの産地として知られている。一方で夏秋イチゴは栽培に合わないなどの理由から、同市を含め同

「すずあかね」など3品種

JA管内で栽培する生産者はいなかった。しかし、夏の場の収益が得られることや雇用の確保ができることから、イチゴの周年出荷を目指すし、同社で栽培を試験的に始めた。

同社ではこれまで、夏秋イチゴの先進産地の長野県への視察やリモート会議などを重ね、栽培ノウハウを習得してきた。同社の担当者には「この地域で栽培し、ある程度の収益を得ることで、イチゴ生産者のロールモデルになれたら」と話す。

収穫したイチゴは、JA全農みえを通して市場へ出荷する他、県内の商業リゾート施設「ヴィゾン」や伊勢市にある産直施設「サンファームおばた」などでも販売する。

また、本年度産の収穫が終了するころ、3品種の栽培結果を基に、来年度産に栽培する品種を選定していく予定だ。

（三重・伊勢）

夏秋イチゴの出荷作業をするあぐりん伊勢の社員